

# 三好化成グループ 環境方針

2026年3月 - バージョン 6  
方針策定: SDPI\*

## 目的

三好化成グループは、関連する国および地域の環境法規を遵守して事業活動を行います。法令遵守にとどまらず、地域社会との共生を図りながら環境保護への取り組みを実施することにコミットします。

私たちは、従業員、顧客、サプライヤー、その他のビジネスパートナーなどのステークホルダーと協力し、合理的な期間内に測定可能なステップを通じて、サプライチェーン全体の環境保護パフォーマンスを改善および追跡し、環境への潜在的な悪影響を防止または軽減することを目指します。

リスクの発生源を改善するための軽減措置が成功しない場合は、代替となる持続可能なソリューションの実施を検討します。

## 適用範囲

本方針は、三好化成グループのすべての拠点および事業活動（製造、研究開発、物流、オフィス）に適用されます。本方針の適用範囲に除外事項はありません。

三好化成グループのすべての従業員は、それぞれの役割に応じた責任を果たし、ビジネスパートナーがサステナビリティへの影響を最小限に抑えられるようどのように関与すべきかを検討することで、当社のサステナビリティ目標を達成する役割を担っています。

また、私たちが直接的に関与していないサプライチェーンの一部においてビジネスパートナーと協力する場合、本方針に定められたものと同様の要件を適用することを奨励します。

## 指針および準拠基準

2025年、三好化成グループは、自社の活動およびサプライチェーン全体に関連する重要課題を特定するため、ダブルマテリアリティ評価（環境・社会と企業の相互的な影響評価）を実施しました。私たちの取り組みは、主にこれらの重要課題に焦点を当てており、それによって行動をより適切、効果的、かつインパクトのあるものにしていきます。

私たちのコミットメントは主にこの基盤に基づいて定められていますが、当社の活動や価値観に照らして適切と考えられるその他の課題にも取り組んでいます。

このプロセスにおいて、私たちは自社のコミットメントと慣行を、GRI、国連グローバル・コンパクト(UNGC)、パリ協定、SBTi (Science-Based Targets initiative)、持続可能な開発目標(SDGs)、ならびに新たな規制要件(CSRD/ESRS)などの主要な国際基準や枠組みと可能な限り一致させるよう努めてきました。

## 主要コミットメントと目標

この目標を達成するため、三好化成グループは以下にコミットします：



### 気候変動・エネルギー消費

- パリ協定の目標(-1.5°C)および科学的根拠に基づく炭素排出量削減目標(SBTi 認定)に沿った、事業活動における炭素排出量の削減
- パリ協定の目標(-1.5°C)および科学的根拠に基づく炭素排出量削減目標に沿った、サプライチェーン全体での炭素排出量の削減
- より持続可能なイノベーションへの着手

取組目標	目標(単位)	期限
スコープ 1&2 炭素排出量の削減(2018 年比)- SBTi 認定目標	-50%	2030
スコープ 3 炭素排出量の削減(2023 年比)	-30%	2035
2025 年からの持続可能な開発比率の向上	50% (開発件数)	2030



### 生物多様性とエコシステム

- 事業活動およびサプライチェーン全体において、生物多様性とエコシステムへの負荷を軽減
- 森林破壊、土地転換、天然資源の過剰利用、水生生態系への負荷など、生物多様性損失の主要な要因への直接的・間接的な加担への最小化

取組目標	目標(単位)	期限
重要な原材料(植物由来および鉱物由来)が森林破壊のないサプライチェーンから供給されていることを確実にする	80%(金額ベース)	2035



### 水

- 特に水ストレスの高い地域に焦点を当て、事業運営における水利用の効率を改善することにより、事業活動拠点での水消費量を削減
- 事業活動における排水量の削減および処理の改善による水質汚染の防止

取組目標	目標(単位)	期限
全生産拠点における取水量の削減(2023 年比)	-30%	2030
全生産拠点における水消費量の削減(2023 年比)	-20%	2030



### 大気汚染

- 人の健康と環境を保護するため、事業活動における大気排出量の削減

取組目標	目標(単位)	期限
年間排出量測定 of 完全遵守を目指す	100% (拠点別)	毎年



### 土壌汚染

- 土壌汚染の回避および陸生・水生生物への事業活動による影響の抑制

取組目標	目標(単位)	期限
有害廃棄物が認定施設で処理されることを確実にする	100% (重量)	2027



### 環境負荷懸念物質

- 人の健康と環境を保護するための環境負荷懸念物質の特定および使用削減

取組目標	目標(単位)	期限
新規開発における環境負荷懸念物質の使用削減(2025年比)	-50% (開発件数)	2032



### 循環経済(サーキュラーエコノミー)

- 製品パッケージにおけるリサイクル素材使用の促進
- すべての生産エリアおよびオフィスを含め、可能な限り事業活動拠点での資材リサイクルを行う
- 処方の改善による製品の環境影響の低減、ならびに消費者および生態系双方の安全確保

取組目標	目標(単位)	期限
パッケージにリサイクル素材を含める	80%	2032
事業活動(生産エリアおよびオフィス)から発生する廃棄物をリサイクルルートに回す	80%	2030
主要な製品群のライフサイクルアセスメント(LCA)を実施し影響を評価する	20% (主要製品数)	2030



### 顧客の健康と安全

- 安全で環境にやさしい製品設計による顧客の健康と安全の確保

取組目標	目標(単位)	期限
有害性分類のない製品の開発	90% (製品数)	2029



### 環境サービスおよびアドボカシー

- 生態系保護および気候変動対策に貢献する環境意識向上、業界連携、アドボカシー活動への支援

取組目標	目標(単位)	期限
専門家連盟や業界団体との環境ワーキンググループへの参加	3 (年間対応テーマ数)	2028



### 社外ステークホルダー・上流サプライチェーン

- 上流サプライチェーンにおける環境慣行を評価し、悪影響を特定するためのデューデリジェンス・アプローチを実施する

取組目標	目標(単位)	期限
環境に関する悪影響について、戦略的サプライヤーを評価	100% (主要サプライヤー)	2028

TREATING  
YOU  
RIGHT



## 実施および見直し

各社の環境責任者、CSR 責任者、または各社でこれらのテーマを担当する者が、本方針の実施を監督する責任を負います。

本方針は 2 年ごと、または必要に応じて見直しを行います。

三好化成グループ各社を代表して  
三好化成株式会社 代表取締役社長 臼井 仁